

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第1号（果樹）



令和2年5月19日 発表 広島県西部農業技術指導所
対象期間 令和2年5月19日～6月上旬
※次回の発表は6月8日ごろです。

もくじ

- 1-1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要）・・・P1
- 1-2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）・・・P2～4
- 2 果樹カメムシの発生状況・・・P4
- 3 気象状況・・・P4
- 4 農薬危害防止講習会について・・・P5
- 5 お知らせ・・・P5

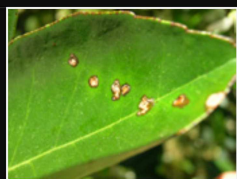
かんきつは南部の以下の地域が対象です。
※西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以东の沿岸島しょ部

1-1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要）		5月11日～14日調査	
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）
かいよう病	並	やや多	◇昨年、かいよう病が発生したほ場では、5月下旬（新梢自己摘心期）に銅剤による防除を必ず行う。ただし、前作の着果過多等により樹勢が著しく低下している場合は、散布を控える。 ◇発病した葉や枝は伝染源となるので、随時樹上から除去する。
ミカンハダニ	並	やや多	◇梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布する。 ◇冬季または春季にマシン油乳剤を散布していないほ場、および前年発生が多かったほ場では発生に注意する。
そうか病	並 ※一部発生	—	◇発病した葉や枝は伝染源となるので除去する。
ナシマルカイガラムシ	やや多	—	◇寄生された枝は、可能であれば除去する。 ◇6月中下旬（第1世代）に防除を行う（ヤノネカイガラムシも同時防除）。 ◇樹冠内部の主枝・枝にもしっかりと農薬がかかるように散布する。
イセリヤカイガラムシ	並 ※発生なし	—	◇6月中下旬に防除を行う（他のカイガラムシ類と同時防除）。
ルビーロウムシ ツノロウムシ	並 ※発生なし	—	◇7月中下旬に防除を行う。
アブラムシ類	並	—	◇開花期防除を徹底する。 ◇開花期防除後も発生が多い場合は系統の異なる薬剤での追加防除を実施する。

1-(2)

かんきつ病害虫の現況と予報(詳細)

かいよう病



現況(平年比)

並

予報(平年比)

やや多

予報の根拠

(+): 多発要因, (±): 平年並, (-): 少発要因

◆巡回調査では、新梢への発生は少なかったが前年夏秋梢の発生は見られた(+).

◆向こう1か月の降水量予報は、少ない20%、平年並み40%、多い40%と予想されている(+).

防除上の注意事項

◆耕種的防除

- ・発病した葉や枝、果実は伝染源となるので樹上から除去する。
- ・強風雨で発生が増加するので、防風樹、防風ネットを整備する。

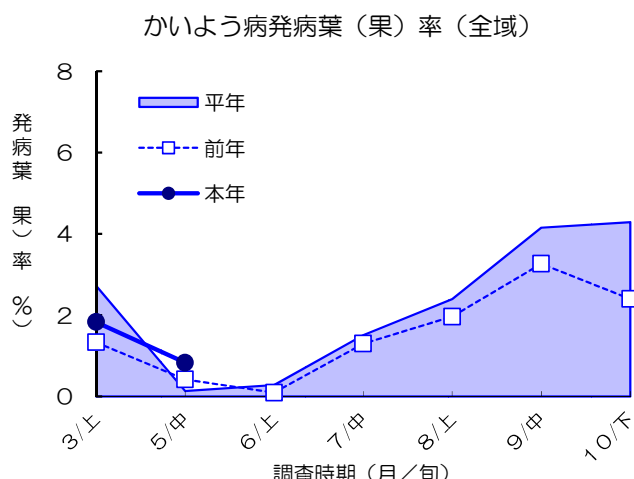
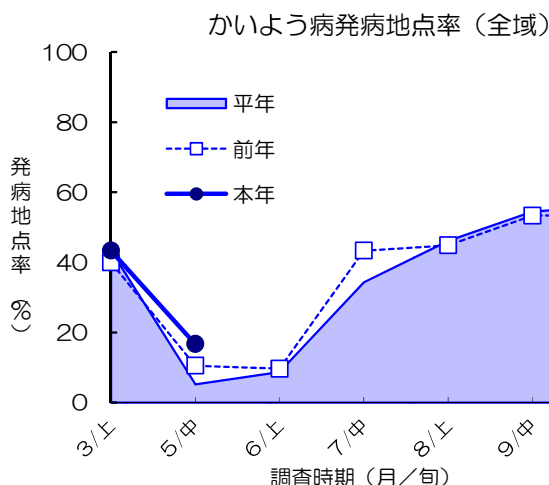
◆農薬による防除

- ・ネーブルやレモン、はるみ、せとか等、かいよう病が発生しやすい品種は、5月下旬(新梢自己摘心期)に銅剤による防除を行う。


◆銅剤散布にあたっての注意事項

- ・前作の着果過多等により樹勢が著しく低下している場合は、散布を控える。
- ・高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あける。
- ・マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用しない。これらの剤との散布間隔は7日以上あける。
- ・無機銅剤(コサイド剤など)の散布を行う際、クレフノン(希釈倍数: 200倍)を加用する。
- ・高温時に散布を行うと薬害が発生しやすいので注意する。

巡回調査データ

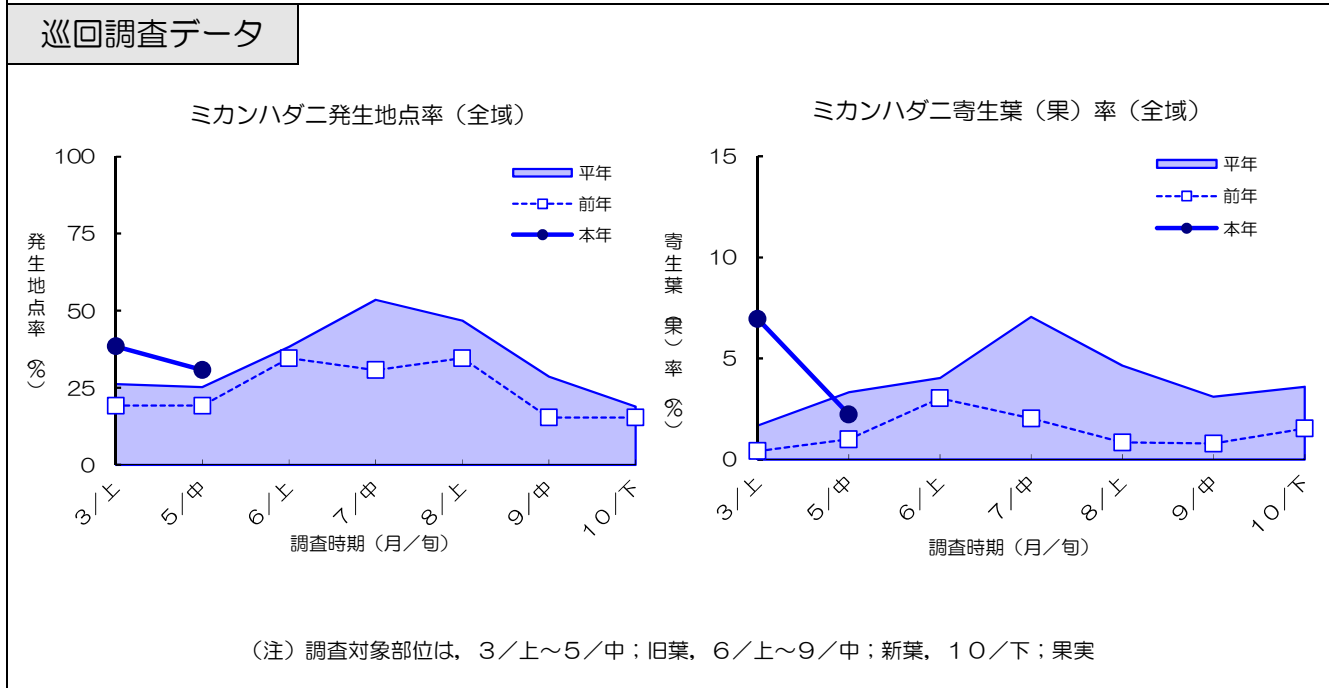


(注) レモン、ネーブルで調査
調査対象部位は、3/上: 旧葉, 5/中~7/中: 新葉, 8/上~: 果実

ミカンハダニ 	現況(平年比)	予報の根拠	(+): 多発要因, (±): 平年並, (-): 少発要因 ◆巡回調査では, 平年並みの発生であった(±)。 ◆向こう1か月の気温予報は, 低い20%, 平年並30%, 高い60%(+), 降水量予報は, 少ない20%, 平年並40%, 多い40%と予想されている(±)。
	並		
	予報(平年比)		
	やや多		

防除上の注意事項

◇梅雨明け後の多発を予防するため, 6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布する。
 ◇冬季または春季にマシン油乳剤を散布していないほ場, および前年発生が多かったほ場では発生に注意する。



【発生量について】

「予報」「現況」は, 「多, やや多, 並, やや少, 少」の5階級に区分しています。区分の方法は, 原則として, 過去10年間の同時期の調査結果の数値を, 発生が多かった順に並べ, 相对比较しています。

「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
 「やや多」 : 2~3番目と同程度
 「並」 : 4~7番目と同程度
 「やや少」 : 8~9番目と同程度
 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマは、防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、かんきつ園に飛来する。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなる。

チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期（発生ピーク）を予測することが可能である。**防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日**が効果的であることが分かっている。

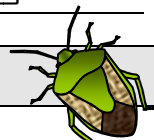
例年被害がみられるほ場では表1を参考に、この時期に合わせた防除を行う。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日（生口島アメダスデータに基づく）

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第1世代	第2世代
平年より高い(+1℃)	5月23日	6月19日
平年並	5月24日	6月22日
平年より低い(-1℃)	5月25日	6月25日

2

果樹全般 —カメムシの発生に注意—



広島県では、チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップを県内7地点に設置し、誘殺状況を調査しています（調査データは広島県ホームページをご覧ください）。

今年は**チャバネアオカメムシの越冬量が過去10年で最多**となっており、越冬量が多いと4～7月の飛来が多くなるので注意してください。

今後の誘殺状況に注意するとともに、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

3

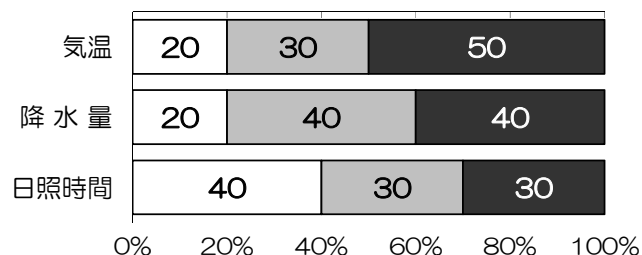
気象情報

中国地方1か月予報

（広島地方气象台5月14日発表，5月16日から6月15日までの天候見通し）

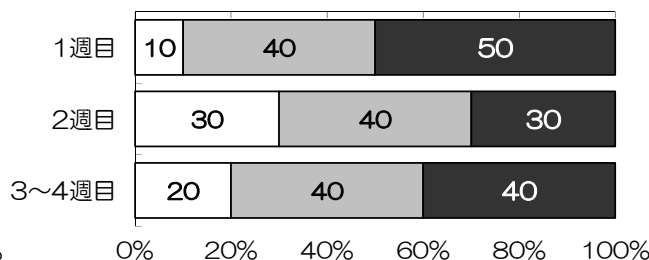
- 天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに30%です。
- 週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

□ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)



0% 20% 40% 60% 80% 100%
※左側より低い(少ない), 平年並, 高い(多い) 確率

□ 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



0% 20% 40% 60% 80% 100%
※左側より低い, 平年並, 高い確率

4

農薬危害防止講習会について

広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年開催していた農薬危害防止講習会は中止となりました。講習会で配布予定だった資料を県ホームページに掲載しておりますので、参考にしてください。

検索 

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

※資料の内容および講習会に関するお問合せは、農業技術課(082-513-3559)へお願いします。

5

お知らせ

◇病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、
広島県ホームページで閲覧できます。

検索 

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>

今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662(直通)